



GFN正面玄関、奥は住居棟

米飯を最大の重
要に位置づけて
うち、チキンハ
タイ国が主要
生産拠点とな
る。特にGF
Nは業務用商
品が中心でフ
ルインテグ
レーションが
特徴。SUN
IFは加工技
術が一番の強
み。お客様か
ら品質、簡便
性、おいしさ、
衣の食感、肉
のジュシー
さを認められ
ている」と
語った。

GFNで

は、平野秀樹上級副社長とは、橋山暢祐副社長が迎えてくれた。同社は2008年に設立、ニチレイフーズが51%、GFPT社が49%を出資する合弁会社。2000年代に入り、中国で食に関する事件・事故が多発したことでチャイナリスクの軽減が課題となっていたなか、タイで生きた鶏から最終製品までフルインテグレーションの中でオペレーションできる会社を設立した。チキン加工品の専門工場、養鶏から鶏処理・加熱加工品まで一貫生産することで安心安全を確保している。GFPT社は、飼料工場から原種鶏場、種鶏場、ブロイラー養鶏場、鶏処理場、加熱工場まで養鶏事業



GFN全景

最大のレムチャバン港まで車で1時間圏内で輸出にも好立地。従業員は5400名で、ニチレイフーズ社員を中心に日本人8名が常駐しているほか、一番近い国力ンボジアの国境まで2時間ほどに位置していることもあり、カンボジア人は3800名を占める。

確保に努めている。タイ人のほか、カンボジア人の従業員が家族で暮らせる居住施設12棟を工場内に併設しているほか、運動場も完備さらに、敷地内に従業員専用のマーケットを併設し、外出しなくても食料品や日用品を買うことができる。現在、居住する約4200名のうち、カンボジア人は3800名全員が暮らしている。欧州の監査では外国人労働者への人権配慮基準が高まるなか、GFNでは高い評価を得ている。

雇用形態は、従業員各個人とGFNとの直接雇用契約。タイでは業者を通じた雇用契約が一般的だが、実際に従業員に支払われる給与がいくらかは不明。GF

一賃金のほか、一部能率給（出来高制）を採用し、正確で沢山仕事をした人が給料を沢山もらえる賃金体系も特徴。環境面にも配慮し、昨23年10月に太陽光発電をスタートし全体の15%を太陽光でカバーしている。廃棄ロスの削減では、鶏の羽根は加熱粉砕してタイで盛んな養殖（エビ・魚）のタンパク源としての飼料に、頭や骨は加熱粉砕してキャットフード向けに、そのほかガラや内臓はタイ国内に販売。血液は東南アジアの食材として一般的な低単価高栄養のブラッドケーキ（凝固した血液を加熱したもの）として販売している。足先（もみじ）は中国へ、モモ肉やムネ肉は日本と欧

GFPTニチレイ
チキン工場フル稼働



加工品需要の
PTニチレイ
。日本向けは
った唐揚げ類、
を中心に、家庭
用は人気商品
「むねから」
の生産拠点と
して、週6日

24時間体制（2シフト）で臨んでいる。一方、スラポニニチレイフーズ（SUNIF）は、唐揚げNo.1商品「特から」の専用工場を有するチキン加工品の主要拠点。新技術「三度揚げ（トリプルフライ）」製法を駆使し、こだわり品質を実現している。本誌はこのほど両社を訪問。高品位な商品づくりに加え、SDGsへの積極的な取り組みを取材した。

三浦正幹

を垂直統合している。10年に2ラインでスタートして以来、20年に第2工場を新

設、現在は7ラインに拡大。生産（凍結）能力は日産144トン。コロナ明けで外食を中心に業務用市場が急回復するなか、旺盛な需要に対応している。

GFNはバンコクの東南東130kmのチョンブリ県に所在。周囲に点在するGFPT社の養鶏場から大型トラックで毎日15万羽の生きた鶏を受け入れている。養鶏場は近い所で5分、遠くても1時間圏内にあるのので鶏はストレスを受けにくい良い状態で入荷できる。また、タイ最大のレムチャ

従業員の人権を尊重し、



従業員専用マーケット

支払っている。同一労働同

州に輸出。鶏 1 羽ムダなく
すべて商品化している。

生産ラインの自動化も進
めている。23 年 4 月から骨
と肉に分ける機械、上半身
のムネ肉とササミと手羽を
自動で分ける機械を導入し
た。テクニクを要する工
程をすべて機械化したこと
で、コロナ禍のように従業
員が大量に離脱した場合で
も処理羽数を変更せず生産
できるようになった。加熱
工程の構造転換をしたこと
もポイント。通常、肉に味
付けする際、調味料の計量
室と、肉と調味料を混合す
る部屋と、そ
の後で冷蔵保
管する冷蔵庫
が 1 か所にあり、そこから
各ラインに原料を送るのが
一般的なのに対して、GF
N ではそれぞれのラインに
計量室と混合室と冷蔵庫を
ワンセットにしていること
で人為的なミスを防いでい
る。

スラポンニチレイ

「特から」増産体制

求めるアニマルウェルフェ
ア（動物福祉）にも取り組



「自動カットマシン」でカットされた鶏肉



生きた鶏を搬入

スラポンニチレイフー
ズ（SUNIF）では、パ

フーズとエビに強みを持つ
スラポンフーズの合併会社
として設立。

宮柱友治副
社長生産統
括、四之宮和
洋副社長総務
統括、阿部広
幸品質保証統
括部長兼生産
統括部長らが
出迎えてくれ
た。同社は 1
988 年、バ
ンコクから南
へ約 30 km のテ
バラック地域
でニチレイ

イブリンカンボンキッ
ト
社長、間宮 稔上級副社長、

冷凍食品を生産していた
（14 面に続く

養鶏場は 100% GF
P T 社が所有。他社では自社
養鶏場の割合は 3〜4 割で
あるのが一般的だが、GF
P T 社は飼料から飼育環境
などすべてトレースでき
る。家畜に可能な限りスト
レスを与えず育てることを

開



スラポンニチレイフーズ外観

選ばれて売上 No.1



※写真はイメージです
※インテージSRI+冷凍調理からあげ市場
（2018年3月～2022年9月）累計販売金額

株式会社ニチレイフーズ

特から

検索

お買い求めは冷凍食品売り場で



特から三度揚げ後の検品

「特から」の専用工場として生産を開始した。人気商品「特から」の販売は右肩上がりに増勢を続け、2020 年冬にはカビンブ

（13 面から続く）
が、1994 年にテバラク第二工場を増設し冷凍唐揚げの生産をスタート。96 年にはバンコクから東へ 200 km のプラチンブリ県のカビンブリ工業団地内に新工場を竣工。需要の増加に対応して冷凍唐揚げの生産能力を拡大し、09 年にはカビンブリ工場内に第二工場を増設した。

その後、ニチレイフーズが 17 年に新発売した「特から」の大ヒットに伴い、19 年にテバラク工場を改修し、「特から」の専用工場として生産を開始した。人気商品「特から」の販売は右肩上がりに増勢を続け、2020 年冬にはカビンブ

リ工場でも生産を開始するなど増産体制を敷いている。
テバラク工場は、選別技術、生産技術、検査技術のノウハウを結集した「特から」専用工場。複数のサプライヤーから良質な鶏肉原料を調達し、おいしさ、価格、品質信頼性において競争力のある新「特から」を生産している。新技術「三度揚げ（トリプルフライ）」製法でこだわりの品質を実現した。生産（凍結）能力は日産 25 トン。
一方、カビンブリ工場は多種多様なフライ調理方式のマルチフライ工場。NB 品のほか、PB など顧客ニーズに合わせた新しい付加価値創出が可能なカスタムメイド型で、「ダブルフライ」、「フライ＋スチームオーブン」、「トリプルフライ」を備えた複合ラインが特徴。たれづけ竜田揚げ、タツタ、鶏の天ぶら、鶏つくね等を生産している。生産（凍結）

全社員一丸で独自のSDGs活動展開

す。その後、余熱を利用してさらに火を通す。最後に高温で 2 度揚げし、からあげ表面の水分を蒸発させることでカラツとした食感を生み出している。「フライ＋スチームオーブン」工程では、始めに油で揚げた表面を固めた後に高温の加熱水蒸気を利用し、中まで火を通す。この時、水分量とオーブン温度を調節し、衣の食感やジュシーさを調整できるのがポイント。「トリプルフライ」は、一度揚げで表面に火を通し、余熱を利用して、二度揚げで旨味

SDGs 活動にも注力している。地球環境に配慮し、特に揚げ油のバイオディーゼル化活動を推進。SUNIF 独自のフライ油リサイクルシステムで、定期的にタンクローリーが工場の廃油を回収するほか、家庭用の使用済サラダ油 3 ℓ を新油 1 ℓ と無料交換。従業員や地域のレストランなどから持ち込まれる。工場廃油は年間 1197 トン（2023 年実績）、家庭用廃油 733 ℓ を回収した。プラスチックフィルムのリサイクルでは、包材を捨

能力は日産 50 トン。
「ダブルフライ」工程では、始めに低温で揚げ、色をつけずに中まで火を通



廃油を回収するタンクローリー

を閉じ込め、さらに余熱で肉にじっくり火を通し、三度揚げで衣をカラツと仕上げる。

でずに会社の回収ボックスに集める。1 kg 5 パーツ（B）で業者に売れるが、環境団体や福祉団体などへ寄付している。会社だけでなく、従業員は家庭生活の中で不要となったビニール袋やコンビニ袋などを回収ボックスに入れることでエコ活動に参画できる「WON プロジェクト」を展開。WON はタイ語で渦巻、スパイラルの意味。リサイクルの意味合いをもじった。1 年間で 338 本の植樹をしたことに等しく、304

2 kg の CO₂ 削減につなげている。この



廃油3本を新油1本と交換

ほか、グリーン外箱採用、自社内排水処理設備、LE

は、国際腐敗防止デーに従業員へ方針を毎回発信、各サプライヤー売買契約時に方針を織り込む。従業員にも優しい。国籍に寄らず全



プラスチック回収ボックスを説明する間宮上級副社長

D（照明）、太陽光照明（屋外）、省エネ生産を進めている。
コンプライアンス活動では、国際腐敗防止デーに従業員へ方針を毎回発信、各サプライヤー売買契約時に方針を織り込む。従業員にも優しい。国籍に寄らず全
また、1 カ月に 1 回 SUNIF マーケットを開催。各サプライヤーも協力し、サラダ油や玉子、調味料、フルーツなどを割安で販売し好評を得ているほか、年末に開催するニューイヤーパーティーも盛り上がり、コミュニケーションの場となっている。周辺地域の寺院への寄付金、病院へのワクチン・ATK 寄付、小学校への SUNIF 製品寄付など地域貢献活動にも熱心。間宮上級副社長が「こうした活動も『特から』を支えている」と言うように、社員一丸で SDGs 活動に取り組んでいる。